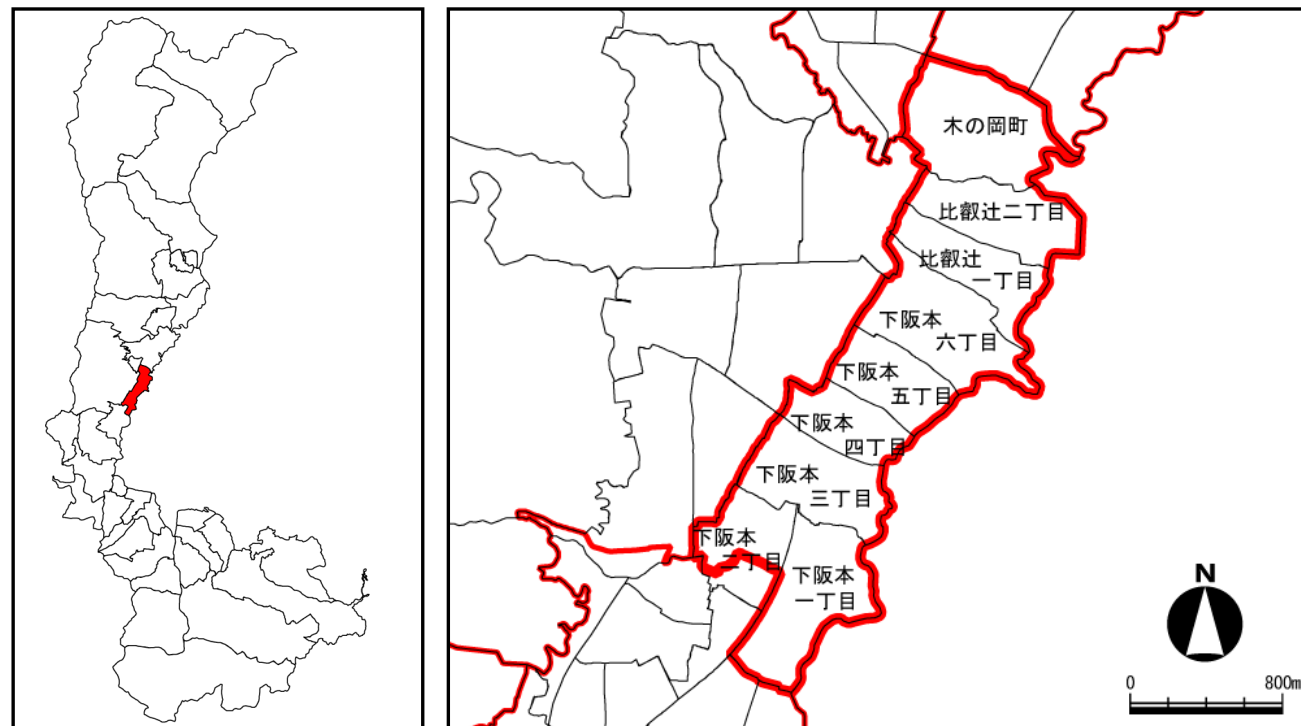


■ 学区の概況



<町丁名>

木の岡町、下阪本一丁目、下阪本二丁目の一部、下阪本三丁目、下阪本四丁目、下阪本五丁目、下阪本六丁目、比叡辻一丁目、比叡辻二丁目

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

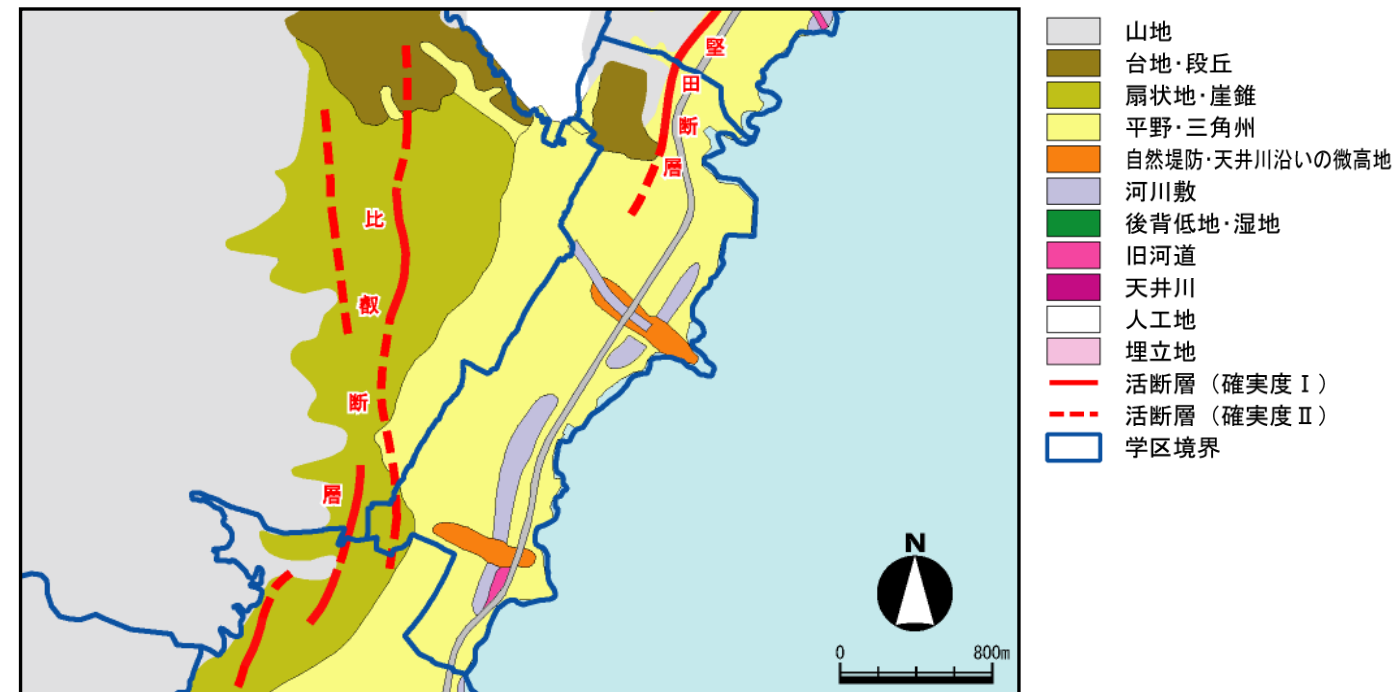
<学区の特徴>

下阪本学区は北国海道の一筋にあたり、旧街道沿いには今も古い家並みがほぼそのまま残っている。また、古くは湖上交通の要所であり、延暦寺の門前町としても栄えてきた地域である。

10世紀末には三津浜(戸津、今津、志津)は延暦寺門前の船津として材木の受け入れ港となっており、織田信長は坂本の地を重視し、この地の湖岸に明智光秀に坂本城を築かせた。

現在の下阪本地域は西大津バイパスの整備等により様相が変わってきているが、田園と旧家の町並み、自然のままの湖岸を有する、落ちついた環境である。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 下阪本学区の地形は大部分が低地からなり、北部には丘陵地がわずかに分布している。
- 大宮川や四ツ谷川は天井川化しており、天井川沿いの微高地が分布している。湖岸線はこれらの川の河口が琵琶湖に突きだし、美しい景観を作り出している。
- 下阪本学区や坂本学区より石山学区にかけて、扇状地が山に沿って帯状に連続的に分布している。これは40万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。
- 河川は多量の土砂を河床に堆積するため、低地を流れる河川は天井川化している。

<地質の特徴>

- 北部の丘陵地は堅田丘陵の南端部である。堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約100万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- 北部では、堅田断層の南端部が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約13kmの活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
木の岡町	63.6	81.1	68.6	37.7
下阪本一丁目	66.9	67.6	84.6	47.2
下阪本二丁目	68.2	66.0	86.7	24.1
下阪本三丁目	81.9	65.7	83.9	20.0
下阪本四丁目	58.4	64.7	83.4	43.9
下阪本五丁目	67.5	70.3	74.8	8.6
下阪本六丁目	62.3	68.8	82.7	26.8
比叡辻一丁目	53.1	68.3	82.2	20.9
比叡辻二丁目	60.8	91.3	44.8	25.7
学区平均	64.9	72.5	79.4	29.5
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 64.9 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 72.5% で市平均の 93.9% を下回り、市内で 3 番目に低い。
- 木造率は、下阪本二丁目 が 86.7% で最も高く、比叡辻二丁目 が 44.8% で最も低い。学区平均は 79.4% で市平均 72.7% を上回り、市内で 4 番目に高い。
- 旧耐震木造建物割合は、下阪本一丁目 が 47.2% で最も高く、下阪本五丁目 が 8.6% で最も低い。学区平均は 29.5% で市平均 40.3% を下回り、市内で 5 番目に低い。

■ 人口の状況

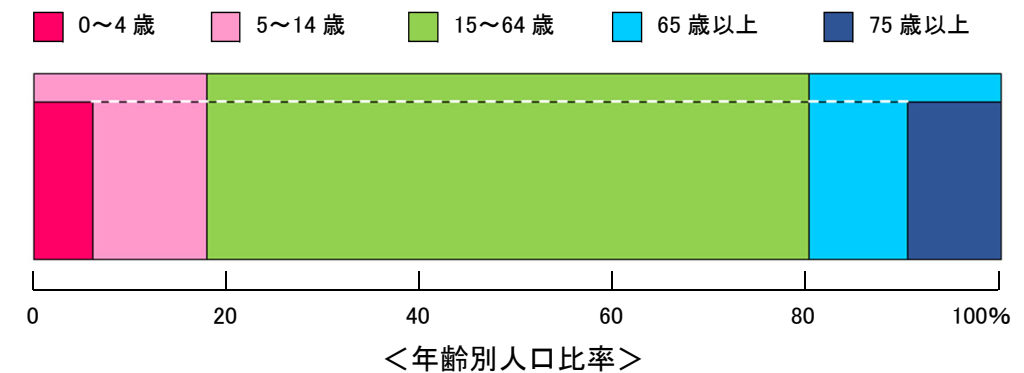
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	11,522	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	694	人	学区人口に対する割合	6.0	1
年齢別 (5~14 歳)	1,364	人	学区人口に対する割合	11.8	1
年齢別 (15~64 歳)	7,163	人	学区人口に対する割合	62.2	1
年齢別 (65 歳以上)	2,301	人	学区人口に対する割合	20.0	1
年齢別 (75 歳以上)	1,128	人	学区人口に対する割合	9.8	1
世帯数	4,784	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.4	人/世帯		—	2
要介護認定者	397	人	学区人口に対する割合	3.4	3
身体障害者 (要配慮者)	114	人	学区人口に対する割合	1.0	4
知的障害者 (要配慮者)	20	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	121	人	学区人口に対する割合	1.1	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区全域が人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 2301 人、乳幼児 (0~4 歳) は 694 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 20.0%、6.0% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 397 人 (3.4%)、身体障害者 (要配慮者) は 114 人 (1.0%)、知的障害者 (要配慮者) は 20 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 121 人 (1.1%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	4箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	0箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	3箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	7箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	0箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） ^(注1)	0箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	1箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	0箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	326,131㎡	6
(0.5m~1.0m)	200,934㎡	6
(1.0m~2.0m)	149,887㎡	6
(2.0m~)	90,857㎡	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	1箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	2箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	0箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）
 3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）
 6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
 7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 学区の北部には急傾斜地崩壊危険箇所が点在し、西部の一部は地すべり防止区域の影響範囲に指定されている。
- 大宮川など河川流域は水防箇所に指定されており、内水氾濫にも注意が必要である。したがって豪雨などの場合には、これらの地域に警戒が必要である。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域があるため注意が必要である。
- 学区北部を堅田断層が南北に通過し、南西端には比叡断層が通る。地震発生について、堅田断層や比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。湖岸域では液状化発生の危険性がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	下阪本小学校グラウンド	○	○	○		下阪本四丁目 10-1
	日吉中学校グラウンド	○	○	○		下阪本六丁目 38-26
	下阪本幼稚園グラウンド	○	○	○		下阪本四丁目 15-12
	新唐崎公園	○		○		下阪本六丁目 2
	下阪本市民運動広場	○	○	○		比叡辻二丁目 14
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	下阪本市民センター	○	○	○		下阪本三丁目 14-30
	下阪本小学校体育館	○	○	○		下阪本四丁目 10-1
	日吉中学校体育館	○	○	○		下阪本六丁目 38-26
	下阪本幼稚園	○	○	○		下阪本四丁目 15-12
指定避難所	日吉中学校格技場（西）			—		下阪本六丁目 38-26
	日吉中学校武道場（東）			—		下阪本六丁目 38-26

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
下阪本市民センター	下阪本三丁目 14-30	578-0017

<警察 110>

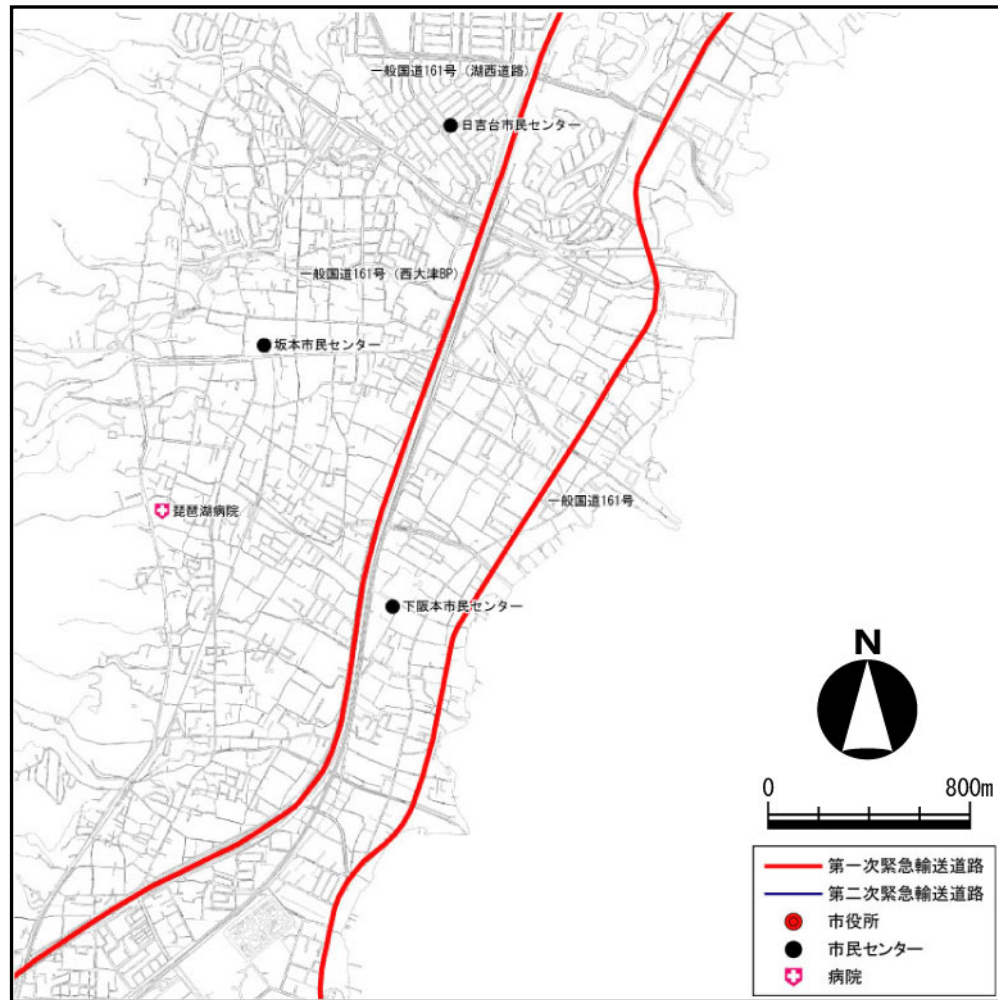
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
西分署	坂本三丁目 27-33	579-0119
下阪本分団	下阪本三丁目 14-30	578-5585



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	2,823	8,826	1,172	646	1,495	39	27	24	88	59	54	4	3	3
ケース2	2,823	8,826	1,251	644	1,573	46	31	28	91	61	55	5	3	3
ケース3	2,823	8,826	868	684	1,210	23	16	14	115	77	70	6	4	4

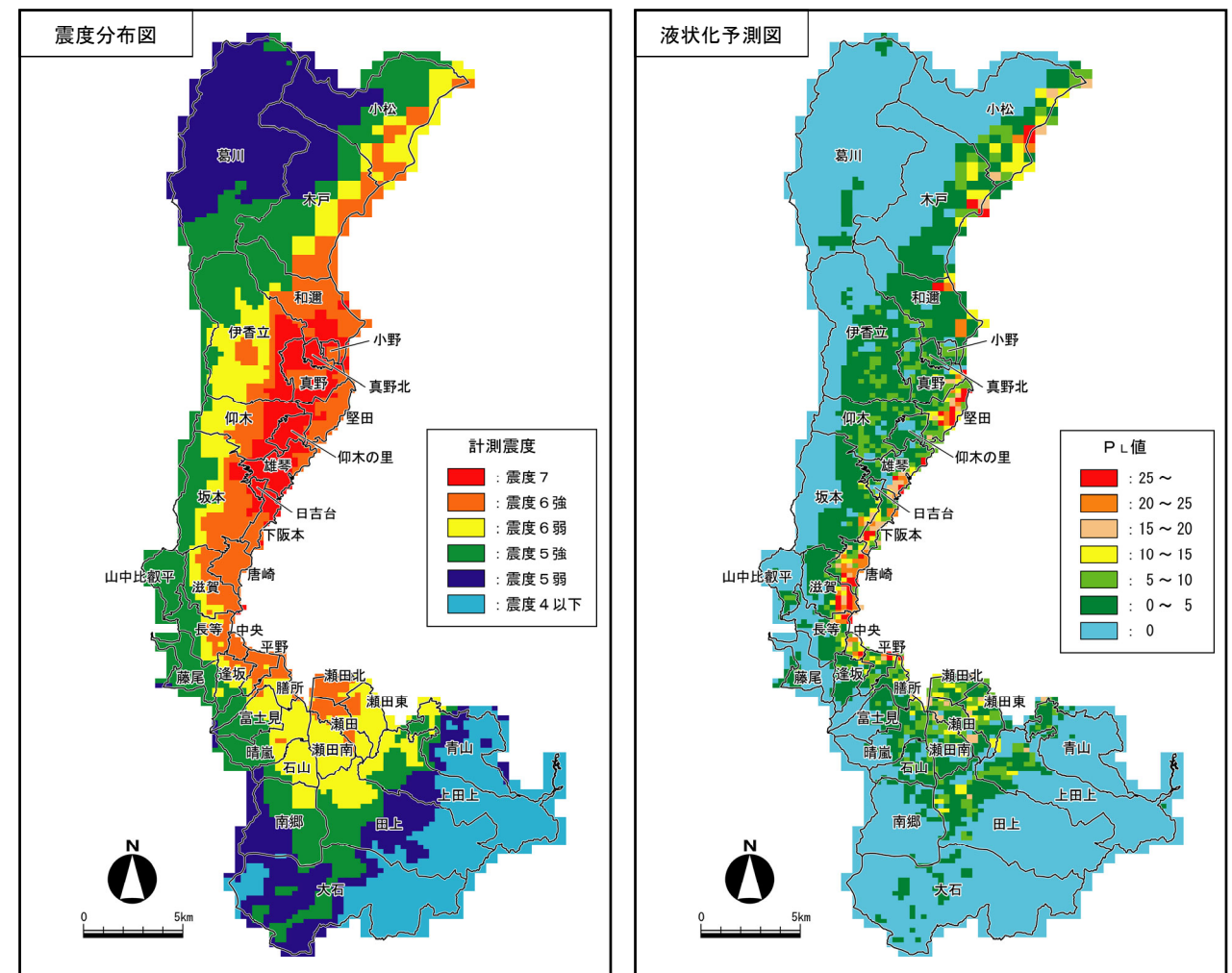
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	3	1,639
ケース2	1	3	4	1,714
ケース3	1	1	2	1,404

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

